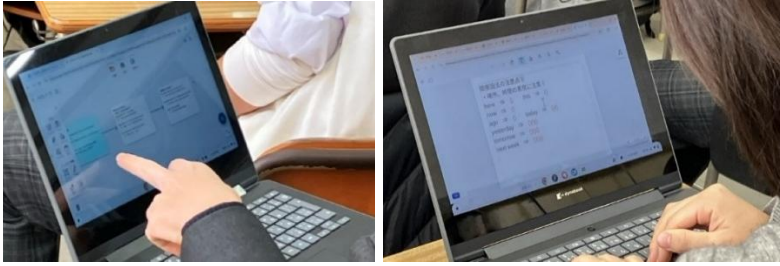




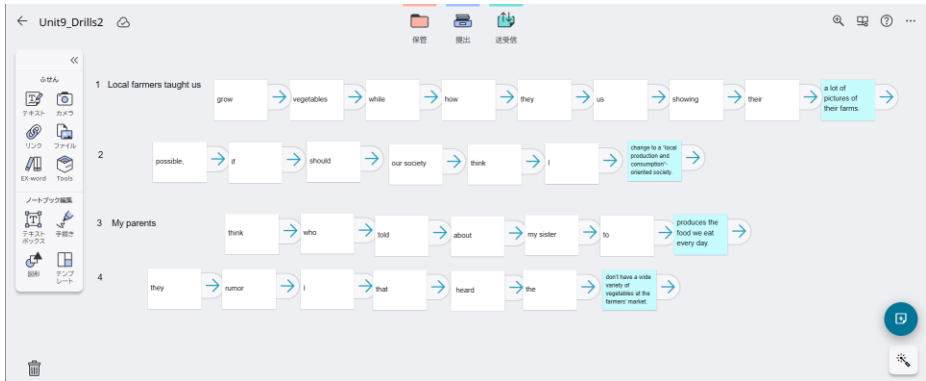
| 高等学校  | 英語・論理・表現  | 3年生 |
|---|---|-----|
| 文法(話法)の理解を深める授業支援アプリの活用   |   |     |
| 単元名「Unit9 Produce locally, consume locally.」<br>(桐原書店『FACTBOOK English Logic and Expression II』)                      |   |     |
| 単元の「聞く」「話す」「読む」の学習後、文法のうち「話法」を重点的に扱った授業。<br>授業支援アプリ「ClassPad.net」を活用することで、間接話法に関する注意点の<br>効率的な指導や、生徒同士の学び合いによる理解を深める。 |   |     |
| <b>【授業の流れとClassPad.net活用のポイント】</b>  |   |     |
| 導入  | 前時の確認。デジタル教科書の画面をプロジェクタに投影し“If you had much money, what would you buy?”をテーマにペアで話し合う。教師は、机間指導で生徒が曖昧な単語等をフォローする。  |     |
| 展開①   | 教師は、間接話法の注意点(時制の一致)に関する穴埋め問題を、 <b>ClassPad.netのデジタルふせんで生徒へ一斉送信して取り組ませる。</b> その後配付したふせんをプロジェクタに投影し、解答・解説する。 <b>※課題の配付・解説を速やかにできるのがポイント</b>   |     |
| 展開②   | ここまでの学習内容の理解度を確認するため、Kahoot!で文法に関する4択クイズを行う。  |     |
| 展開③   | 教科書のDrills2(単語を並べ替えて文章にする問題)にグループで取り組む。<br>① 事前に教師は、単語が書かれたふせんをランダムに配置した共同作業スペースをClassPad.netのグループワーク機能で作成しておく。<br>② 教師はClassPad.net上で生徒を3～4人×10グループに分け、グループワークに参加させる。<br>③ 生徒は <b>ClassPad.netの共同作業で単語を並べ替え、英文を作成していく。</b> ※単語を並べ替えて文章を作る過程を、生徒同士がグループ内でビジュアルに確認できるのがポイント<br>④ 教師はClassPad.net上で各グループを巡回し、進捗を確認するとともに、動きが止まっているグループをフォローする。<br><b>※端末上で各グループの進捗を瞬時に確認できるのがポイント</b> |     |
| まとめ   | 本時の振り返りと次回の内容について説明する。  |     |

## 【展開①で穴埋め問題を一齐送信し取り組ませる様子】



## 【展開③で取り組んだ単語の並べ替え問題】

以下のデジタルノートを、同時編集可能な「グループワーク」として設定し、グループ内の生徒同士議論しながら並べ替え、英文を作成させた。



## 【活用した「ClassPad.net」について】

手書きができるデジタルノートに、テキストや図形、カメラで撮影したノートなどの画像や各種マルチメディアファイル、Office系ファイルを「ふせん」という単位で貼り付け、繋げ、情報を整理・表現できるアプリ。

本時では使用しなかったが、生徒に配付した課題を回収する提出機能も備わっており、

2024年度から県内に順次配備中の電子黒板と組み合わせた活用が効果的。



## 【本時でデジタルツールを使用したねらい】

「活字を使ったビジュアル化」が容易。例えば、穴埋め問題では、キーボードを使って取り組むことで、単にノートや紙に記述するときとは違った感触で単語に慣れ親しむことができる。また、並べ替え問題でも、教員の教材準備時間が短縮されるだけでなく、生徒が「活字を画面上で動かす」ことで、普段読んでいる文章がどういう構造になっているのか、想起しやすい。